

まえがき

2008年度地理学野外実習は、2008年9月30日～10月4日までの4泊5日の日程で実施した。最初の2日は巡検、その後3日は調査実習である。

参加者は横瀬、粕尾、羽生、小松(智)、小松(純)、宮本、半場、細萱、小岩井、丸山の学生10名と、ゲストとして名古屋大学大学院の中村優太氏、引率の廣内を合わせた12名であった。

夜行高速バス、夜行寝台特急のサンライズ瀬戸、自家用車などで現地をめざし、集合は9月30日の9:00にJR琴平駅である。

台風が接近する小雨模様の中、初日の巡検では金刀比羅宮、中央構造線の変動地形と香川用水取水口を阿波池田の丸山公園より観察、祖谷溪と平家屋敷や民俗資料館を見学し、池田あわの抄に宿を取った。翌10月1日は台風の進路がそれ一転した晴天の中、龍河洞を見学、その後南下して念願の室戸岬の海成段丘と海岸地形を観察するコースであった。

調査実習の拠点は、高知県高知市で、高知県文教会館に宿をお世話になった。10月1日の夜は郷土のさわち料理に舌鼓をうった後、翌2日より、各自が事前に決定し準備をすすめていたテーマに沿って、各々調査を実施した。調査は海成段丘と地殻変動、活断層、沖積層の成立過程、台風による浸水被害と水害対策、城下町の水害と治水対策など自然や防災、歴史災害に関わる分野から、清酒業と若年層の意識調査、高知港港湾計画、建設業の新分野進出、沈下橋の景観など経済、文化、社会分野までの様々なテーマに取り組んだ。単独での現地調査や聞き取り調査など、各自はじめての取り組みであり、資料の収集や後の分析とまとめには、多くの時間と苦勞を費やした。事前、事後の指導会も計6回行った。そのすべてを収めることはできないが、調査研究の成果を本報告にまとめている。各自の努力の成果を見ていただければ幸いである。

調査にあたってお忙しい中、地図や資料の収集、ヒアリング等にご協力いただいた行政機関や団体、会社や個人の方々に心から御礼申し上げ、感謝の意を表します。

平成22年2月

廣内大助（信州大学教育学部自然地理学研究室）

2008 年度地理学野外実習報告書

高知

【目次】

まえがき

高知平野東縁における海成段丘の南海道沖地震による沈み込みの検討 1
粕尾 奈緒

昭和 50 年台風による仁淀川下流域の浸水被害とその後の水害対策について 7
小松 純也

高知平野の沖積層とその成立過程 14
丸山 陽央

高知県における新分野進出事業の現状と課題 21
小松 智恵

高知市における若年層の清酒に対する認識と関連業者の取り組みの現状と課題 . . . 34
半場 達也

高知港港湾計画の有効性と住民意識に関する考察 45
小岩井 直人

高知城下町の形成と治水対策 51
細萱 京子

あとがき